

# 練馬区学童野球連盟

## 第1リーグ Bリーグ戦試合規定

(目的)

- 1 練馬区学童野球連盟、第1リーグBリーグ戦(以下「Bリーグ戦」という)においては、低学年に「野球」というスポーツの楽しさを体験させることと共に、基本的なルール、礼儀等を学ぶことを主とする。

(規定イニング数及び規定時間)

- 2 試合は5イニングとし1時間15分を経過したら新しいイニングに入らない。

(本投間及び塁間の距離)

- 3 本投間の距離を14メートルとし、塁間は21メートルとする。

(勝敗)

- 4 規定イニング終了時又は規定時間経過時において同点の場合でも、延長戦は行わず、引き分けとする。

(コールドゲーム)

- 5 試合経験を積むことを主とするため、点差によるコールドゲームは行わないものとする。
- 6 降雨・日没によるコールドゲームは4回終了でコールドゲームとする。

(出場選手登録)

- 7 登録できる選手は1年生以上4年生以下とする。Aリーグとの重複は認めない。

(合同チーム)

- 8 1チームで9名以上の選手参加が困難な場合はリーグ長の承認により合同チームの参加を認める。なお、合同チームは固定した合同チームとはせず、試合毎に合同チームを結成する。

(登録票の提出)

- 9 試合を行う各チームは、試合開始30分前までに登録票、メンバー表、ボール2個を本部に提出する。なお、合同チームにおいては試合開始40分以前に集合し、当該チームの指導者間にて十分な打ち合わせをすること。

(先攻・後攻の決定とベンチ)

- 10 試合の先攻・後攻は両チームの主将がジャンケンにより決定し、ジャンケンの勝者が先攻・後攻を先に選ぶことができる。なお、ベンチは先攻を3塁側、後攻を1塁側ベンチとする。

(シートノック)

- 11 各試合シートノックは7分間とし、後攻のチームから行う。

(準備投球)

- 12 初回及び投手交代時に限り5球以内の準備投球が許される。但し次回からは3球以内とする。

(ボーク)

- 13 審判員が判定し、審判はボークについての指導・説明を当該選手、指導者に行うこと。(野球規則上のボークの罰則は与えない)

(ベンチ入りする指導者)

- 14 ベンチ入りできる指導者は4名までとし、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名とする。但し、合同チームにおいては5名までとし、監督1名、コーチ3名、スコアラー1名とする。指導者(ベンチ入り以外も含む)は選手に対し威圧的な言動、叱責を慎み、相手チームのファインプレーであっても拍手をもってそのプレーを称えましょう。

(背番号)

- 14 重複する背番号は禁止とします。但し、合同チームにおいてはこの限りでない。

(選手交代)

- 15 1名の選手交代であれば球審に直接申し出ること。2名以上の場合は、時間を短縮する観点から、球審に断りを入れ、本部に申し出ることとする。本部は選手の交代を記録し、相手チームに報告するこ

と。

(攻撃の制限)

16 1 イニングの得点は5点までとする。5点を取った時点で攻守を交代するものとする。

(得点に係る特別ルール)

17 3アウトまでに4点以内であった場合は、その点数を得点とするが、5点を取って強制的に攻守交替するときは、得点した5点に加え、その時点の残塁数、イニング残アウト数を得点に加えるものとする。

(準用規定)

18 この規定に定めのない規定においては、練馬区学童野球連盟の試合規定を準用する。

## お願い

### （投球制限）

- 上部大会においては、選手の健康上の観点から4年生以下の投球制限を60球としています。リーグ戦において投球制限は設けませんが、自主的に投球制限をすることが望ましいと考えます。

より多くの選手に、色々な守備機会を与えることで、新たな可能性を見出すチャンスなのかもしれません。

選手交代の機会が多くなり、審判員、本部の方にはご負担を掛けますが、選手育成のためにご協力お願いいたします。

### （時間の短縮）

- 投球制限をすることで、「ウェイト（待て）」のサインが多くなることが予想されます。「ウェイト」も野球の中では大切な作戦とは思いますが、Bリーグ戦は試合を経験することを主としたいと考えます。

時間の制限があるため、四死球が増えることによって、打者機会、守備機会は減少します。「好球必打」をモットーに、ストライクなら積極的に打ちに行くよう指導お願いします。

### （ストライクゾーン）

- 球審をされる方へのお願いです。なるべく少ない投球数にするために、従来よりストライクゾーンを広げ、より寛大な判定をお願いします。

### （礼儀・作法）

- 野球というスポーツは、礼儀・作法に厳しいスポーツです。礼儀・作法に厳しいところを感じるものは千差万別であると思いますが、それが野球の伝統だと考えます。

チームメイト、相手チームへの思いやり、審判員、指導者への感謝の念があり、挨拶やお礼ができるものだと思います。

指導者、審判員が率先して挨拶等を行い、選手達に意味は分からなくとも、会場にいる人や審判員への挨拶、死球の時に帽子を取って謝る仕草など、基本的な礼儀・作法の指導をお願いします。

(その他)

- 先日の理事会で、練習中の指導者の言動について、外部の方から指摘があった旨報告がありました。暴力、暴言は勿論のことですが、選手を委縮させるような言動には注意をお願いします。

審判員、本部で上記のような事が認められた場合は、厳重に注意勧告し、その後も続くようであれば退場等の厳しい措置をお願いします。

応援している父兄についても同様と考えます。

声援や拍手を送ることで選手達に勇気や元気を与えるものです。

選手たちが精一杯のプレーができるような応援をお願いします。

- 規定上1年生の登録も可能としていますが、指導者がその選手の実力、技量を考慮し、充分危険に配慮したうえで選手の起用をお願いします。

練馬区学童野球連盟  
第1リーグ

平成30年度  
2019

# Aリーグ戦

平成31年4月10日

4 試合

リーグ長

川口

勝敗	日付	北原少年野球クラブ	関町タイガース	下石神井小ライガース	石東野球クラブ	上小立野クラブ	光和エンジェル	関町ニューウエスタン	レインボークラブ	成績				試合数
										勝	負	得失点	成績	
得点	失点													
北原少年野球クラブ										0	0	0		0
関町タイガース							● 3/21			0	1	2 11 -9		1
下石神井小ライガース					○ 3/31					1	0	12 0 12		1
石東野球クラブ				● 3/31			● 3/24		4/14	0	2	6 24 -18		2
上小立野クラブ										0	0	0 0 0		0
光和エンジェル			○ 3/21		○ 3/24				○ 3/31	3	0	61 8 53		3
関町ニューウエスタン			11 2		12 6				38 0	0	0	0 0 0		0
レインボークラブ					4/14		● 3/31			0	1	0 38 -38		1